

# 「水道施設耐震工法指針・解説(2009年版) 設計事例集」 正誤表

平成22年2月22日

頁	訂正箇所	誤	正
3	表-1.1.1 NO.3の管種	硬質塩化ビニル管	硬質塩化ビニル管(主にTS継手)
10	上から6行目	・管路復旧速度:1.28(日/班・日)	・管路復旧速度(件/班・日)
23	上から2行目	本検討では、実務において新設構造物の設計実務において～	本検討では、新設構造物の設計実務において～
32	表-1.2.14 備考	原単位 250% <sub>日</sub> /日	原単位 250% <sub>人・日</sub> /人・日
120	表-2.5.10 備考	$\lambda = 1/3 \sim 1/4 \rightarrow 1/3.5$ とする	$\lambda = 1/3$ とする
126	下から2行目	なお、曲げに対する性能～	曲げに対する性能～
126	最下行	本計算例では～損傷レベル3とする。	なお、本計算例では曲げひび割れ点を考慮した解析を行っているため、耐震性能1を損傷レベル1と損傷レベル2に区分している。目標とする耐震性能は耐震性能2であり、曲げに対しては損傷レベル3以内であることを照査する。
127	表-2.5.14 一番左の列	限界状態 限界状態1 限界状態2 限界状態3	耐震性能 耐震性能1 耐震性能2 耐震性能3
127	図-2.5.9	<p>図-2.5.9 曲げに対する損傷レベル(曲げモーメント、曲率)</p>	<p>図-2.5.9 曲げに対する損傷レベル(曲げモーメント、曲率)</p> <p>追加:耐震性能1、耐震性能2、耐震性能3 修正:限界状態→耐震性能</p>